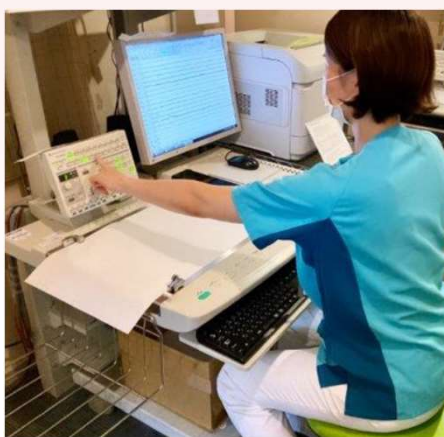


「コロナ禍における臨床検査技師」



心電図検査



脳波検査



在学中体育祭にて（前列左）

聖路加国際病院 臨床検査技師 石井理穂（平成22年3月普通科卒）

2020年4月緊急事態宣言発令、現場に緊張が走り、そんな現場で私は臨床検査技師として奮闘していました。未曾有のウイルスによる恐怖からか、外来患者は減り、さまざまな検査の中止、感染対策による制限が余儀なくされ、さらにマスク、防護服の不足といった経験したことがない状況で困惑していました。また、医療従事者差別や検査数の批判が臨床検査技師という職業を否定されているようにも感じていました。しかし、私はこの職業に誇りをもって職務にあたっています。

私の職業である臨床検査技師は、あまり知られていない職業です。しかし、その業務は多岐にわたり、大まかに分けて検体検査と生理機能検査があります。現在、私は生理機能検査室に所属しており、心電図検査、脳神経検査、肺機能検査といった数十種類の検査を担当しています。他に採血業務、夜勤では輸血業務をしています(夜勤は年々辛くなってきました…笑)。また、それぞれの分野において専門的な知識が必要となり、検査結果から医師に助言することもあります。医師看護師に比べると患者と深く関わることはなく、あまり感謝されることはないです。しかし、検査結果によって診断や治療が決定されていくため、臨床検査技師は縁の下の力持ちであり、存在なくしては医療が成り立たないと考えています。そして多くの方に臨床検査技師という職業に少しでも興味を持って頂きたいです。

私が臨床検査技師を目指し始めたのは八千代高校入学の時です。当時、先輩体験談で臨床検査技師を目指している話を読み、興味を持ち始めました。調べるにつれ、興味から医療に進み、臨床検査技師になりたいという目標に変わりました。そのため、高校生活＝勉強という印象があるほどひたすら目標のために勉強に打ち込んでいました。そのためクラスでは寡黙な印象があったかもしれないです(本当はそんな性格ではないのですが…笑)。もちろん勉強以外でも思い出はあり、文化祭での影絵、球技大会、体育祭でのフォークダンス等、様々な思い出がかけがえのないものです。今でもオレンジと緑の組み合わせをみると八千高カラーだなあと感じたりもします。

同窓生には結婚、育児、転職などさまざまな分岐点にたっている人、後輩たちには大会の中止等で悔しい思いをしている人もいます。私自身も将来のビジョンがみえないことが多く悩む日々ですが、今日の前にある一つ一つが自分にとって大切なことであり、今後の人生に必ず役に立つと信じています。この大変な状況下ですが、共に頑張っていけたらなと思います。

最後になりましたが、私の文章で少しでも臨床検査技師を理解してもらえたら嬉しいです。この経験したことがない世界で不安もありますが、私は臨床検査技師という職業に誇りを持ち、また明るい世界が戻ってくることを願いながら、医療に携わっていきます。

略歴

- 2010年3月 八千代高校卒業
- 4月 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科入学
- 2014年3月 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業
臨床検査技師国家試験合格 取得
- 2014年4月 聖路加国際病院 臨床検査科 入職
臨床検査科輸血部 配属
- 10月～現在
臨床検査科生理機能検査室 配属
- 2016年9月 第2級臨床検査技師神経生理 取得

